

出稼ぎ先を訪問して (2)

小 熊 順 一

三、慰 問 品
 東電新聞社、湖畔時報、五城目電報局、五城目町長等からの慰問品は出稼ぎ中のみなさんから大変よろこばれ好評であった。贈られた主な内容は次のとおり、
 湖東新聞 一三〇部 湖東新聞社
 湖畔時報 五五部 湖畔時報社
 はがき 千枚 電報電話局
 出稼ぎ助成会のしおり百部 県出稼対策室
 金一封 四万円 五城目町長
 広報 一〇〇部
 町勢要覧 四〇部

四、その 反 響
 この訪問は、秋田県と湖東部のニュース、故郷のたよりに願っている従業員のみなさんをはじめ、事業所あげての大歓迎にはむしろ恐縮した。

東京の出稼相談所長(これは、秋田県東事務所長宇佐美善久氏兼任)は、東京都下の事務所については東京担当の松野相談員と神奈川県下については、神奈川担当の岡田担当相談員を各一日宛小生と同行させて下り、大阪の相談所は(秋田県大東事務所長の庭谷欽一郎氏兼任)秋田県からの出稼勧助第一号であると非常に喜んでくれた。

A 出稼者の内訳

昨年度本町の県外出稼者は、五三名となつておる。年令的には四十六才から五十五才までの人が二二三名(三七・八%)世帯構成

まつて就職することを、すすめる
 C 職業訓練所の利用
 本県ではこのような事態に備えて次のような職業訓練所を開設している。若し人達は職場の中て技術要員としての有利性を生かすために、是非利用していただきたい。

科 目	期 間	開 設 場 所	摘 要
溶 接 科	6ヶ月	秋田 能代	
塗 装 科	6ヶ月	湯沢 本荘	
ブロック建築科	6ヶ月	大曲市	10人
建築 科	3ヶ月	鹿角郡内	各15人宛
空 接 科	〃	秋田 能代	15人
技 金 科	〃	横手	15人
ブロック建築科	〃	大曲市	15人
建築機械運転科	〃	鷹ノ巣町	10人*4回

D 健康診断と互助会加入のすすめ

本町では昨年九月出稼先で死亡した方がおるので、町では不慮の災害に備えて、出稼ぎをする時に気軽に健康診断できるように計画している。その際は一人残らず参加してほしい。
 更に会員五人を一組とみて、秋

件 名	内 訳		摘 要
	互助会員	非会員	
傷病者	84名	4	3万円~5万円(程度による)
死亡者	23名	7	30万円
火災件数	5件	1	5万円(留守宅半壊以上)
計	112	21	

昨年十一月から今年の二月十九日までわずか四ヶ月たらずに出稼者関係の事故が全県下での発生は上のとおりである。

田魁新報が毎日一部宛、県月刊広報誌「あきた」が毎月一部宛、広報誌「こじょうめ」が毎月二回無料送付される。以上が互助会の主な内容であるが、この恩恵を受けるためには、一人年間二〇〇〇円の会費が必要である。不慮の事故を思ふ入をすき割安の会費なので、全員の加入を強く望まれている。
 最後に出稼者の多くから次の事を強く要望されている。
 自宅から通勤できる工場を早く誘致してほしい。

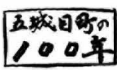
お知らせ

入湯税が改正になりました
 入湯税の標準税率は、入湯客一人一日につき二〇円であったが、今回法律の改正によりこれを四〇円に引き上げられ、当町では六月一日から適用になります。
 税率を二〇円引き上げたのは、入湯税の税率が昭和二十八年以來

病身だった稗田知事は郡境をこえて五城目にやってきました。関係者の熱意と陳情が、知事に異例の旅をさせたのだ。森林資源の豊かさや阿仁郡と湖東部の近さとの経済性を知事は身をもつて知った。五城倶楽部(永井旅館)での歓迎会の席上、五城目・米内沢線を産業道路として七年度に着工するとの知事は約束した。しかし着工までの道程はわがわがした。知事来城約一か月後に満州事変がおこり、この補助金に不安をもたせられたに民政党若槻内閣が政友会大義内閣となった。前任者の約束ははたごにひびいた。期成同盟や関係者の落胆は大きかった。
 昭和六年(一九三一)は東北地方が大凶作におそわれた年だ。この付近の山近くの土地では五割減取から八割減収がザラだった。十二月政府は東北北海道地方庁舎の農村救済のために予金部資金五千万円融資を決定して、政府がお農失策対策のための土木工事をおこしてくれば、その一つとして阿仁道路改修が決定になるかも知れないというのが、一つの望みだった。
 この間、阿仁出身で町に歯科医院を開業していた田口耕一郎は「上小阿仁村紹介」「阿仁漫談」を新聞に半年も連載して地域の人々に訴えて。
 一度か絶望のうわさが流れたが、重ねられた陳情がみりて七年七月の臨時県会で産業道路として

◎母親学級
 五月二十日
 五城目公民館
 対象者 昭和四十六年七月八月
 出産予定者

夏期の不順天候が予想されます
 五月下旬までの積霜
 七月上旬~八月上旬にかけての
 夏期低温の出現に注意して下さい。



(30)

奥地の開発 ②

道路と森林軌道

小野 一二

改修されることになった。工費二万二千五百圓、富津内地区線部界笹森峠山まで、失業救済事業として九月着工となった。明治三十二年初めの改修以来、三十年後二回目の改修となったのは、冷害の産物といえぬことない。七年度の仕事は笹森峠と山を割る所が数か所あることがわかり、川堤橋はコンクリートにする必要のあることが明らかになった。地元関係町は工事統括をさうに担当に働きかけなければならなかった。しかし我が国は戦争のドロ沼にはまりこみ、数年後に工事はすたられ特産を自動車を通るようにならなければならなかった。阿仁郡の森林軌道と五城目軌道を結び、やがて一人前の鉄道をしようとする「一米線」鉄道の計画は構想としてくすぶりがつたがやがて消える。ところが、鉄道への夢はもう一つあった。北に又森林軌道を敷き、秋田・北別間の森林軌道と結ぶ計画もついていた。馬場目下下四四メートルのトンネルをが、五城目と秋田は鉄道で結ばれ、忘れられたた沢の山が人々の注目を集めた。やがて軌道にはきたが、秋田に運ずるにはならなかった。
 この杉沢の森林軌道もトラック運材におされ、今年で消え去る運命にあるという。

田植機利用モデル集団を設置

—— 四ツ屋外三集団 ——

耕耘機、トラクタの普及による整地作業の合理化、病害虫防除の大型徹底化(航空防除、スビードスプレー等)、更には雑草の種防除の効率的な除根剤の効果を率化、収穫機の高高度化にともない、農作業の省力化がいち早く進んだと考えられることができる。

しかし、農業労働力の他産業への流出は、農村の労働力不足に更に拍車をかけあらゆる農作業に高度な省力化が要求され、中でも最も原始的な作業であるとなっており、田植機は大変なもの、この難行からの解放は古くから稲作農家の悲願であった。

わが国では、昭和十七年頃から田植機の開発研究に入り、三十七八年頃から籾苗移植機の開発が進み、約半世紀の知識と経験によって今日の実用化まで、田植から収穫までの機械化作業体系が確立され、農作業の省力化を大きく前進することが出来るので、町では本年度農業協同組合と共同でモデル集団を設けて、とりあえず育苗から刈取りまでの状況を一般農家に指導取りまして展示し、又担当グループからは、生育調査などを含め栽培管理の詳細を記録してもらい、実用化の普及推進に役立てる。またモデル集団では、今後全耕作面積を田植機による移植をしたい方針でその結果が目ざされる。

類以上におよんでいるが、主要用田植機と根洗田植機の二つに大別する。モデル集団の場合は、土付苗用田植機の方である。

土付苗は現在のところ籾苗ないし、中苗を対象とする。育苗は箱育苗で育苗器等の育苗施設を用いる場合が多い。

播種機式によって、ひも苗、マット苗、ポット苗等の区別がある。本町の場合は、ひも式とマット式を採用している。

ひも苗は苗がひも状に連続したもので、田植機では、ひも状態で機内に入り移植機、機内のカットで一定寸法に切断されて一株苗を形成する。

マット苗は育苗箱一面にバラまきした苗である。成育が進むにつれて、根が相互にからみあつて育苗箱の苗は一枚のマット状を呈する。この名がある。マット苗はひも苗のときの様に播種時に手数を要しない長所があるが、一株苗数に変動の多い欠点がある。

しかし、播種密度を均一にし育苗中の管理が適切であれば、単位マット中の生育ムラや苗立ムラも少なくなるので、一株苗数も進みなり揃う。また播種法の技術が進むにつれて、マット育苗田植機も急速に普及される予勢にある。

なおモデル集団名は次のとおりである。

- 四ツ屋農事研究会 加藤孝一郎 担当責任者
- 谷地中集団栽培組合 佐藤 其助 担当責任者
- 五域目町南部農事研究会 渡部 志郎 担当責任者
- 杉沢農事研究会 石川 亮 担当責任者

五域目町議会五月臨時会

町税基礎控除額十四万円引上り

五月臨時町議会は、去る七日開かれ、町税条例改正について審議したが、いづれも原案どおり可決した。

審議案件の中で、個人町民税の所得控除額を現行の十三万円から十四万円に引きあげられた。また配偶者控除額は十一万円から十三万円に、生命保険料控除の最高限度額は、二万五千元から二万七千五百円となり、温泉の入湯税が二十円から四十円にそれぞれ引きあげられた。

入湯税の便途は消防施設等にむけられる。この改正で町税の増減は町民税が約三五〇万円減るが、入湯税は約十四万円引上り、国保税は約一九一〇万円の増額が見込まれる。

専決処分案は、四月に地方債が入ったため、災害復旧費として繰り入れたを四十五年一般会計に繰り入れた。

秋田県市町村交通災害共済組合規約の一部を変更する規約について、これは昭和四十四年から交通事故対策として県内各市町村が共同の一部を変更するものであるが約二割に對照し、変更するための組合規約を非常に少ないので、今後啓発に力を入れて不慮の事故に備えなければならぬことが話し合われた。

青少年の健全育成をめぐす 少年保護育成委員決る

五域目警察署では管内の青少年健全育成をめぐして、このたび昭和四十六年度の保護育成委員二十名を、県警本部長名で委嘱した。

補選における街頭や車等乗物内等における補導活動、環境調査部による不良文化財(出版物や映画・テレビ等)の調査で、青少年のために住みよ、環境造りを促す活動、広報部による青少年の健全育成を期するためのPR活動等を通して、委員をはじめとして社会全体で、次の世代を担う青少年として健全で育つようにお世話している機関です。青少年の生活をめぐって広く住民のご理解と積極的なご協力をお願いするとともに、青少年の健全育成のためにご相談やご意見等ありましたら、率直に最寄りの委員によびかけてほしい。

環境美化

住民一人一人の理解から

花から緑へ自然の美しさが増すとともに、なんとも目下で不衛生で残念なのが、町内の河川や山野・空地などいたるところにすたれている木屑・紙屑・金属類・ガラス等ごみの多いことである。

美しい自然を誇りにしている善良な住民にとってなんとも残念なことです。

最近の生活水準の向上・生活様式の変化等によって、家庭や生活用品の更新が目だち、更には庭園造りなどで個々の生活環境は急速に美化されましたが、そのしわ寄せが前記のような箇所が自然が汚染されてもよいのでしょうか。

染されたことをよく考えて、ごみ等の処理をしてほしいものです。

●婦人や学生・生徒の協力に期待
●社会教育活動(生活学校等)によって、公衆道德の向上をめざす

三才児のみなさん
おあかさんといっしょにきてね

健康診断

三才児のみなさん、みなさんを健康診断するのは、みなさんが人間として生きていくために必要最低限の機能を獲得する時期であり、早く手当を必要とする心身の悪いところを発見するために適しているからです。

おあかさん方には、健康な育児の方向づけにこの上ない参考になるものと思うので、お忙しいですが、明るく健康な子どもを育てあげるために、是非おいでください。

健康診断の日程表は次のとおり

3才児健康診断日程表

対象者 昭和42年9月1日～昭和43年8月31日間に出生した幼児

月日	受診対象者	時間	場所
5.27	昭和42年 9月10月生	1時～2時	五域目保健所
6.23	昭和42年 11月12日生	#	#
8.10	昭和43年 1月2月生	#	#
8.31	昭和43年 3月4日生	#	#
9. 7	昭和43年 5月6日生	#	#
9.14	昭和43年 7月8日生	#	#

